

「2022年度韓国・延世大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 佐々木初花

志望動機書でも述べた通り、私は朝鮮語、朝鮮の服飾史、南北統一問題、韓国の食文化に興味があり、このプログラムへの参加を希望しました。

まず語学学習についてお伝えします。私は初日を除き語学堂の2級クラスで学習しました。最初級変更をする時3級を希望したのですが、文法は分かっても話하기が得意ではないだろうと担当者に説得され、私もそれに納得して2級になりました。

実際、授業中先生の言っていることは9割5分分かりましたし授業内容も比較的簡単でしたが、一日中何かを話すことを求められたため、頭の中を整理しながら着実に文章を組み立て話す練習をたくさんさせてもらうことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

また3週間の滞在中に日常のあらゆる場面で朝鮮語を聞くことで聞く力も非常に向上し、修了式に話された言葉などはほぼ全て聞き取ることができるようになっていました。毎日同じバスに乗り同じ文章を聞くことなどが非常に役立ちました。

語学堂の授業では「日本語話者向け」ではなく「非韓国語話者向け」の教育を受けたため、朝鮮語とともに、日本語の特徴についても外側から見つめ直し、深く考える機会となりました。例えば川などの文末表現や推量の表現は日本語の感覚と近い存在ですが、それ以外の言語には発想が伝えにくい言葉だったりします。またベストのことを조끼と呼ぶなど、近代に日本語が朝鮮の言語に与えた影響の大きさも強く感じさせられました。

服飾史については、古宮博物館と慶州の史跡・国立博物館を訪れ、景福宮で韓服体験をしました。

最初に訪れたのは景福宮内に設けられている古宮博物館です。この博物館では朝鮮王朝時代の宮廷の暮らしについて様々な展示がしてありますが、その中には勿論朝鮮王朝時代の服飾にまつわる展示もありました。やはり私の好奇心が最も昂ったのは王後の即位式の装いのマネキンでした。それまで絵やドラマの写真だけで見るしかなく、想像のつきにくかった服や髪や装飾品の実際に近い形を見て、当時の人々の美的感覚を知ったり、その美しさに共感することができました。また朝鮮王朝の宮廷の髪型に関する説明は、どなたかがやっておられる日本語の個人ブログでしかその情報に触れることができなかつた私にとっては大きな収穫でした。実際の服や装身具といった遺物も見学できて良かったです。

また私は美術史にも関心があったのですが、朝鮮美術の良い作品に触れることができたのも有意義だったと感じます。

次に慶州の史跡や国立博物館では、出土品の装身具が数多く展示されており、新羅の時代の朝鮮民族がどういった装いを好んだ、あるいは尊んだか、ということを知ることができました。景福宮の韓服体験では、比較的伝統的なデザインの韓服を着せてもらい、伝統的な韓服だといってもやはり人々の日常着である以上様々なバリエーションが存在することを知れましたし、実際に着た時の肌触りや重さなどを体感することができました。

統一問題についてはDMZのツアーに参加することで学びを深めました。私が思っているより統一を望む声や力が大きいというのが最大の学びでしたし、また同じ北朝鮮との国境を使った観光ビジネスでも、中国側では北朝鮮の国旗グッズや職員のバッジのレプリカなど親北朝鮮的な儲け方をしているのに対し、DMZでは平和を願う地域としてのDMZグッズを数多展開しているという違いに面白さを感じました。

食文化については語学堂で2つ、有意義な体験をしました。まずは갈비찜です。これは教科書に度々登場しただけなのですが、私の知らない、朝鮮文化と深く関わる料理であり、その存在を知れたこと自体に意味があ

ったと考えています。またたまたま入った食堂で安く提供していたので実際に食べることもできました。2つ目は調理実習です。2級の生徒以外には提供されていないというのが惜しいですが、ここで잡채を作る中で、韓国の調理方法や味付けの基本に触れることができました。

それからルームメイトとの共同生活もとてもありがたいものでした。3週間も他人と生活するのは初めてで、ちょっとした生活の知恵から気配りのあり方、価値観の違いまで、同じ京大生同士でありながらも非常に学ぶことが多かったです。放課後や週末に何らかの体験をするにつけても、3人の人手と知恵があるお陰で格段に動きやすかったです。

디스커션 때 우리 역사 반에 와 주신 여러분! 정말 고마워요~!! 여러분 덕분에 우리는 제대로 의미 있는 시간을 보낼 수있었어요.

Both of the classes were so interesting but I want to talk about the lecture "Masculinity, Modernity, and Men" by professor Helen Lee. Just listening to the title, I could not expect it to be a lecture about male society in Japanese history. And we Kyoto university students felt "Patriotism" and 'Shudo', as very geeky topics, because most of the general Japanese including us haven't even heard about such things. So I am sorry for our unfavorable, passive attitude in the class.

At least I really felt it was very interesting, but I could not give my opinion at all. This is because I was not confident about my ideas and my English ability. I hardly understood the speeches by native English speaking students. But the lecture was a very good opportunity to learn the atmosphere of classes of Yonsei university and to understand Japanese society and culture.